



経鷲会会員のみなさまへ

経鷲会会長 柳本 信一郎 (S38 経・商)

会員のみなさまには、日頃より経鷲会活動にご理解・ご協力を賜り、感謝申し上げます。さて、ご承知のように、「個人情報保護法」施行に伴い、経鷲会では従来以上に、会員の個人情報の取り扱いには慎重な姿勢で取り組んでまいります。ソフィア会との連携をさらに強めながら、管理体制の整備などに努め、下記の基本方針に基づいて活動処理を進めてゆく旨、ご通知申し上げます。なにとぞご了承を頂きますようお願い申し上げます。なお、名簿より削除をご希望の方はお申し出下さい。

1. 利用目的：

経鷲会は会員相互の親睦を図り、併せて上智大学経済学部の発展に寄与することを目的にしています。氏名、住所、および卒業生番号を主とする個人情報の利用目的は、エコノミアンの発行・発送、会費納入願ひ等に限定します。

2. 取得：

個人情報の収集は、会員およびソフィア会から、適法かつ公正な方法で行います。

3. 正確性および安全管理：

個人情報が正確かつ最新の内容となるよう努めるとともに、個人情報の漏えい防止等、安全管理に努めます。

4. 監督：

個人情報管理の従業者及び外部委託による個人情報の取り扱いについては、必要かつ適切な監督を行います。

5. 情報提供：

法令に基づく場合や、人の生命、身体または財産の保護のために必要とされる場合を除き、個人情報を第三者へ提供・開示することはありません。

6. 開示・訂正・利用停止：

本人から、当該本人の情報について請求があった場合、

調査を行って正否を検討した上、次のように対処します。すなわち、情報開示については、特別な理由が無い限り、それを開示します。情報の誤謬については、訂正、追加または削除を行います。情報が利用目的を逸脱して使用されている場合、利用停止の措置をとります。

経鷲会総会・記念講演会・懇親会のご案内

下記により経鷲会代議員会・総会を開催します。引き続き、卒業生による恒例の記念講演会を予定しております。今回は、昭和43年経済学部卒、四国・香川県の風雲児、成長企業として快走中の株式会社ビッグ・エス代表取締役の大坂靖彦氏に講演をしていただきます。その後、ソフィアンズクラブにおいて、上智大学理事長、学長、教授の皆様をお招きして懇親会が開かれます。

この機会に皆様お誘い合わせの上、ご参加下さい。



第一部 代議員会・総会

日時：平成18年11月18日(土)

午後14:30～14:50(代議員会)

14:55～15:30(総会)

場所：上智大学2号館17階1702室

第二部 記念講演会

日時：同15:35～17:10

場所：上智大学2号館17階1702室

講師：株式会社ビッグ・エス代表取締役

大坂靖彦氏(昭和43年卒)

演題：“蛻変(ぜいへん)の経営

～人生設計と経営戦略”

第三部 懇親会

日時：同17:30～20:30

場所：ソフィアンズクラブ

会費：3,000円

以上

母校100周年記念募金事業へご協力を！

日頃はソフィア会、経鷲会にご理解、ご協力を頂き感謝申し上げます。

さて、母校上智大学が2013年に100周年を迎えることは、上智学院からの募金趣意書やソフィア会からのソフィアンズナウ等で既にご承知のことと思います。

イエズス会を母体として建学された上智大学は、これまでに96,000人以上の卒業生を世に送り、“Men and Women for Others”の建学の精神は、ソフィアンの国内外の活躍を通して具現化され、社会から信頼を得る大学となりました。これはまさに経鷲会をはじめ、卒業生の皆様のご活躍によるものと確信しております。

かつて、紀尾井の杜で学んだ我々と同じように、上智の伝

ソフィア会会長 本多 義人 (経鷲会前会長)

統としての少数教育、国際性溢れる教育が、21世紀のこれからの後輩達にも受け継がれるよう、母校100周年事業へのご協力をお願いする次第です。

ソフィア会として協力する目標募金額は、2013年までに10億円であり、この募金額にむかって現在募金活動を展開しております。是非とも母校のためにご協力下さるようお願い申し上げます。

なお、募金にご協力頂ける方は上智学院より送られております募金趣意書の申し込み用紙、並びに振込用紙をご利用下さい。万一、申し込み用紙、振込用紙がお手元にはない場合には、ソフィア会事務局にご連絡下さい。

皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



金杯を戴いて

荻原 信友 (S31 経・経)



さる5月28日、オールソフィア
 ンズ・フェスティバルに先立ち、10
 号館講堂で卒業生の金・銀・銅祝の
 式典が行なわれ、私もここで祝状と
 金杯を戴く光栄に浴しました。大変
 にうれしく思います。

この際、1956年に卒業して以来、
 いろいろ変化の多かった50年を省
 みてみます。

(1) 卒業当時、不景気で就職率は芳
 しくなく、何かと大変でした。経済学部卒業生は150名ほど。
 その中で、J・Pモルガン銀行(前身チェイス・マンハッタン
 銀行)に就職が決定し、その直後にシェル石油にも採用が決
 まりましたが、大学の規定で先に内定した方へ入社しなければならず、いまでもこのことで外資系銀行に入ったことを後悔しています。

銀行での最初の3年間は出納係り、次の3年は当座預金係
 り、最後の2年は会計を担当しました。

ここで、異変が起きました。ある日、人事部長から呼ばれ、
 日本IBMから求人依頼があるので、試験だけでも受けて
 みないかと誘われました。1963年のことでした。多少の不安
 がありましたが、試験に落ちて身元は保証するとのことで
 したのでトライしました。テストはかなり難しく感じましたが、
 英語の成績が良かったらしく、無事、合格できました。これ
 で、銀行からコンピューター会社に勤めが変わります。

(2) IBMに入ってから8年間はコンピューターの納期管理
 を工場ですらされました。きわめて忙しく、年次休暇もま
 たく取れず、残業に続く残業で、厳しい生活の毎日でした。
 9日目あたりから、余りの激務で不眠症に陥りました。会社
 からは神経症と診断され、しばらく業務から遠ざかるよう言
 われました。これでは会社を辞めるしかないな、と考える毎
 日が続きました。その後、会社指定の神経科病院へ入院する
 ことになりました。

結局、1970年に1ヶ月半の入院生活を送りました。その日々
 たるや想像以上にひどく、とくに食べ物の劣悪だったこと、
 昼に出るラーメンはツユがなかったり、ご飯はすべてが古米
 でした。問題は、一度入ったら何年でも入院を強いられ、ご
 く普通に見える人でも10年という者もありました。そんな
 中で、私もいつになったら退院できるやらと非常に不安な連
 日でした。私の場合、短い入院ですみましたが、長期にわた
 り通院し、薬のお世話になりました。

仕事の方は工場施設部の総務課に配属され、比較的軽い業
 務に配転となりました。その後、翻訳業務を任せられ、1975年
 には難関の英語検定試験1級に合格しました。1979年には廃
 棄物処理施設技術管理者の試験に合格し、工場全体の廃棄物
 管理を任せられました。

いろいろありましたが、1993年に30年間勤続したIBM藤

澤工場を定年退職しました。この間、ワンダーフォーゲル部
 に所属し、夏は登山、冬はスキーと多くの余暇をエンジョイ
 しました。

(3) 退職後はキャンプ座間PXのキャシアーとして3年間勤
 務し、それからはフリーな人生となりました。女房と一緒に
 10カ国ほど海外旅行も楽しみました。ワイフとは見合結婚で
 42年になります。我慢強く、働き者で、料理上手。わがま
 まで苦勞の多かった私を黙って支えてくれました。彼女がい
 なかつたら、私の人生はなかつたことでしょう。

自宅から車で20分ほどのところに米海軍厚木基地があり
 ます。そこに所属する海軍大尉と懇意になり、彼のおかげで
 基地内に入り、月2回、歴史ものを中心に英語の勉強をして
 います。傍ら、毎回ドル建てのプライスで安くおいしい食
 事をしたり、将校クラブでカクテルを楽しんだりしています。
 経鶯会の会合にも出ています。



経鶯会懇親会にて。右端が筆者

女性蔵元、 酒づくり修行中

前田 くみ子 (H1 経・経)



この5月28日、オールソフィ
 アンの集い「SJ ガーデン合同ガ
 ーデンパーティ」にて経鶯会の先輩
 方との新たな出会いがありました。
 それまで経鶯会主催で開催してい
 たワインパーティーと日本酒のき
 き酒会(酒類ジャーナリスト松崎
 晴雄氏(83外西卒)実行委員)と
 が合同でSJハウスのお庭にて開催
 され、新緑美しい庭で先輩後輩と
 楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

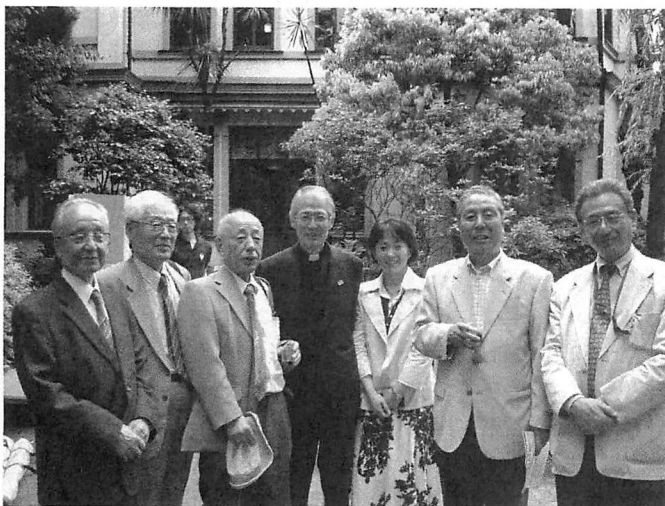
ちょうど5年前のオールソフィアンの集い開催日は、生まれ育った酒蔵の今後を考え蔵元として会社を経営するに当たり、酒造りを基礎から勉強してみようと決断、北区滝の川にある酒類総合研究所での製造者技術研修(約40日間)に参加するため上京した翌日のことでした。上智大学と日本酒をつなげて考えたことのなかった私はASFでのきき酒会開催は大きな発見であり喜びでした。

それから5年間、冬は朝5時半から酒造りに携っております。男性社会であった酒造りの場、製造は杜氏に任せていた父（社長）の意に反してのチャレンジ、蔵人さんたちはお前がやるのだったらと私を迎え入れてくれました。試行錯誤の酒造りではありましたが、自分なりの造りのデータと蔵人さんらの意見を取り入れながら、昨年は大吟醸古伊万里が全国新酒鑑評会金賞、今年は入賞と徐々にその実績を上げていくことが出来ました。普通酒メインのわが蔵でも、全国レベルへ酒質を向上させることが出来たと社員一同で喜んでおります。1昨年3度目の造りを終えた春、酒を造っているが売り上げはなかなか上がらない、私がやっていることはこれでいいのだろうか悩んでいたときの受賞だったので、私の肩にかかっている大きな荷物がちょっと軽くなった感じでした。

酒造りの面白さは、いかに自分の追及するもの、求める味を醸しだせるかにあります。ここ数年の異常気象により米の成分にも変化があり、原料処理の段階（洗米）において特に米を50%以上精米する大吟醸造りでは水温、米温度に気を配り秒単位で洗米を行ないます。この段階で失敗するとよい蒸米があがらず、それは仕込み後のもろみの発酵にも大きく影響を及ぼすのです。発酵状態を確認するため毎日の分析とそれに伴う温度調整、真っ白なもろみがブクブクッと音を立てて成長していく様子は、日々表情が違い、本当にわが子を育てているようです。（私には子供はいませんがそんな気がします。）40日後酒袋に入れたもろみがろ過されて澄んだ酒となって搾り出されてくるときは、果たして自分の味になっているのかと心配しながらのきき酒、この一口でそれまでの苦勞が吹き飛んでいきます。

日本酒は世界に誇る醸造酒です。現在アメリカをはじめ世界各地で日本食・日本酒ブームが起きています。国内ではワイン、焼酎に押され課税出荷量は10年前の約半分まで落ち込んでいますが、輸出量は2年前の倍以上です。そこで私が思うことは、是非国内外で活躍されているソフィアンの皆さんに、侘びさびに始まる日本文化、日本食、日本酒、粹な日本を紹介していただきたいと思います。それが私が造ったお酒であればなおうれしく思います。

江戸大正明治にかけて有田で作られた焼き物は伊万里の港



SJ ガーデンにて。中央が高祖理事長、その右が筆者

より全世界へ広がり「古伊万里」として世界中の方に愛されています。私の蔵は、伊万里の小さな小さな酒蔵ですが先代たちが築き上げてきたこの伝統技術を守りつつ、また新たな酒造り、会社経営を行なっていきながら「清酒古伊万里」を世界中の方に飲んでもらえる日本酒に成長させたいとの夢を描いています。今取り組んでいる商品、有田焼入りカップ酒「NOMANNE ノマンネ」はその取り掛かりの第一段階です。ノマンネとは佐賀の方言で飲みませんか？の意味。日本酒を飲んでもらうきっかけ商品となればと願っています。

造りを始めて5年、とにかくいろんな場所に出かけ多くの方との出会いがありました。そのつながりが今いろんな形で成果を挙げてきています。今回、上智大学という学びを通じての出会いを大切に、また「明日の出会い」につなげていきたいと思います。

これから日本酒の美味しい季節になります。是非一度私の醸した酒を飲んでいただき、ご意見ご感想をお聞かせいただければありがたく存じます。

古伊万里酒造有限公司 <http://www.meritbank.net/koimari/>にて検索してみてください。

（古伊万里酒造有限公司取締役）

素晴らしい企業・ 素晴らしい仲間

三木 真弘（S46 経・経）



アリゾナ大学院の経済修士課程を卒業し、アメリカの化学会社モンサントに入社しました。それから数年後、当時は世界最大の半導体メーカーであったTI（テキサス・インスツルメンツ）に転職したのが1979年。そして80年代に入り、TIは日本企業にトップの地位を奪われ、90年代の初頭まで厳しい岐路に立たされていました。当時の混沌としたTIのビジネス環境の中で社員として働いたことは、いまでも記憶に新しい。それ以来、企業のリエンジニアリング（リストラ）と、4年に一度のシリコンサイクルといわれる半導体不況の中で、TIは何回もダウンサイジングを実施し、アメリカの企業の厳しい対応を経験してきました。

そんな中、TIの基本というべき哲学は「企業倫理、誠実さ、成せば成る」でありました。一見、何の変哲もない企業文化に見えましたが、TIはこの基本をいかなるビジネス環境の下でも変えることなく、私もその基本を軸足として4半世紀以上をビネスマンとして過ごしてきました。いま、当時のことを静かに振り返っているところです。

思いおせば、TIに入社して間もないころ、私を採用してくれた上司から怒鳴られたことがあります。（それで、おそらく首になると思ったほどです）。私がある件で“そんな事は不可能”と言った途端、上司は「君に出来ないことはない！もう一度よく考えて出直して来い！」と一喝されました。

上司のそんな激怒に対し、なにもそこまで思ったのですが、いわゆるテキサス人魂というやつで、このとき習ったcandóの精神は、いまも私の精神のよりどころとして深く根付いています。つまるところ、上司が理不尽な要求を強いているわけでもなく、私自身があまりにも甘えた気持ちと態度で仕事に接していたことを、彼のリードとコーチで勉強させてもらいました。しかも、彼は持ち前の誠実さで、ビジネスマンとして未熟な私をあらゆるところでサポートしてくれたことは、特に感慨深いものがあります。それ以来、この会社の仲間たちとの信頼関係を深くするのですが、そこには、この上司を中心としたTI特有の文化が根付いていたのでした。

それは、行動規範としてのTIの価値と倫理です。以下にその一端を紹介してみたいと思います。(TIの規範を抜粋しました。)

- * 私たちはお互いを尊敬し、認め合います。そしていつも正直であります。(誠実)
- * 私たちは学び、そして創造し、果敢に行動します。(革新)
- * 私たちは責任をまっとうします。そして競争に勝つことを誓います。(コミットメント)
- * そして、正しいことを知ろう、正しいことを尊重しよう、正しいことをしよう。

簡単ではありますが、この基本的なことがTIの文化なのです。爾来、仕事やプライベートな親交を通じて、これらのことを実感してきました。

今は私も含め、ほとんどの友人がTIを退社していますが、いまだに、TI卒業生としてかつての上司を含む4人が年に一度は会う機会を持っています。ときには、テキサスで、フランスのニースで、カリブ海で、東京でという具合に、これらの4拠点の各地で順番に場所を変えて再会し、あの頃の苦しかったこと、楽しかったことを語り合っています。TIの四銃士といったところでしょうか。

現在、私は大手製薬会社米国メルク社の日本法人、万有製薬に勤務しております。このメルク社にも家訓のようなものがあります。1950年に米国メルク社二代目のジョージ・W・メルクが、米国の大学で講演した時に語った一節がそれです。

「医薬品は人々のためにあるのであり、利益のためにあるのではないことを決して忘れてはならない。利益は結果として得られるものである。そして、このことを我々が銘記していれば、利益が失われることは決してないであろう。どのようにすれば全ての人々に最良の医薬品を届けることができるだろうか。その答えを見出し、最高の成果を全人類にもたらすまでは休むことは出来ない。」

この当たり前と思える言葉の中に、医薬品メーカーの含蓄があると思われてなりません。

私が過ごしたTIと今いる会社とは、企業と企業人の行動規範において、どこか相通じるものがあります。

投機的な思惑の中にひそむ利益至上主義や、倫理観の衰退(欠落)によるとしか思えない企業のいろいろな不祥事が起こっている昨今、上のようなコーポレートカルチャーと共に生きている私は非常に幸運だと思っています。

(万有製薬株式会社シニアディレクター、当会広報委員長)

6年間の修道生活、そして会社勤めへ

和田 孝 (S41 経・経)



私は高宮ゼミに入っていました。ゼミでは高宮教授の他に2名の先生もご指導され、特に高宮教授のトップマネジメント論は実際の企業から学び取ったもので、その後、企業勤めをしてから役に立つものばかりでした。しかしながらカトリック信者の私はどういう訳か3年生の2学期頃から企業人になるより「神父」になろうという思いが徐々に強くなり、4年生の

時には司祭になるためのコース、当時の文学部スコラ哲学科(現在の神学部神学科)の1年生を兼ねて勉強に励みました。

4年生になったばかりの4月の中旬頃に突然学校から呼び出しを受けて何事かと伺ったところ、①3年生までの成績が優秀で②授業態度が良好③かつカトリック信者で真面目?であった事などの理由で、イタリアのオリベッティ社日本支社より表彰され、当時で5万円もの大金をいただく話でびっくりしました。年間の授業料が確か3万円ちょっとの時代でした。更におまけが付いていて、卒業後はその会社に自動的に就職が出来る事になっていました。また高宮先生からは大学院に来よう誘われましたが、そんな事には脇目もふらず神父になる事ばかり夢見て、毎日、ラテン語や哲学などの勉強に夢中でした。

また4年生の時には「男子マリア会」修道会の志願者として経済そっちのけでスコラ哲学科の勉強ばかりをしていました。経済学部を卒業後、卒業式にも出ないで大磯の山奥にある修練院で修練生14名との修道生活が始まりました。毎朝5時起床、黙想の後、ミサにあずかり、掃除、朝食後、1日6~7時間の授業を受け、午後には牛の世話などもしました。夜9時半ごろ



カンヌの海で、仲間たちと。右端が筆者

には消灯です。冬はストーブ、夏は扇風機だけでした。暑い夜は窓を開けて床につくと、遠く「大磯ロングビーチ」から何ともいえないハワイアンソングが聞こえて来るではありませんか。でも邪心は一切捨て、一心不乱に修練に励みました。

翌年の3月に初誓願を立て、再び東京に戻りスコラ哲学科の2年生に編入学。このスコラ哲学科の生徒は将来、神父になろうとする人ばかりですから、①麻雀はしない②煙草も吸わない③喫茶店に入っておしゃべりなんてもつてのほか④若い女性や異性、特に綺麗な上智大学の女性との会話・交際は一切、御法度の別世界でした。

スコラ哲学科卒業後、これまた卒業式にも出ず中間期と言って修道会が経営する大阪の明星学園の教師として派遣され、修道生活兼教員生活を始めました。1年ばかり過ぎた頃にどういう訳か私の心が揺れ動きはじめ、一生独身で修道院生活を続けて行って良いのだろうかという疑問が湧き、2～3ヶ月の熟慮の末、ついに修道生活を止める決心をし「俗還願い」をバチカンに申請、許可が下りました。約6年間の修道生活でした。

修道会を退会後、その足で東京に戻り、散々思案したあげく、高宮先生に「就職」のお手紙を出し、お願いに伺いました。先生のお部屋を開けるとすぐに私の事を思い出され「どうした？神父になるんじゃないのか！」と言われ、あの時ほど「ばつが悪かった」事はありません。この思い出は一生忘れられません。先生のお世話で某社に無試験で入らせていただき、それから企業人として30余年勤務し、無事に定年を迎えました。昨春から国家公務員として公共職業安定所（ハローワーク）に勤務し、求人企業と失業者の相談に全身全霊を傾け、修道生活とは違った大変充実したやりがいのある日々を過ごしています。八月には63歳、医者のお妻と3人の子供（既に結婚し独立）と可愛い4人の孫を持つお爺さんです。

また東京都合唱連盟個人会員（プロ音楽家）、カトリック典礼聖歌・グレゴリオ聖歌指導者、スポーツ指導者、水泳指導者、プロのスキューバ・ダイバー、ライフセーバーなど趣味の世界に第二の人生を満喫しております。



神学生時代の筆者

信念を貫いて起業 ～人との出会いに支えられて

平田 稔 (S35 経・経)



学生時代は、真面目ではあったが学業成績は揮わない、すべてに自信のない学生でした。就職活動においても、友人が次々と有名企業より採用内定の通知を受ける中、昭和35年4月に、3年先輩である服部実氏の紹介で、山叶証券(株)へ新卒54名の1名として入社し営業部に配属されました。

入社当時の私は、誰が見ても証券会社の営業マンとしては不向きな人間で、訪問先で株式、投資信託や債券の販売の話も言い出せず、また十分に説明もできず、お茶を濁して帰ろうとする有様でした。しかし、友人の父上が日本棋院で囲碁の先生をしており、会社の帰途や休日などにお寄りすると、お弟子さんである企業経営者を紹介してくださったりしました。当時、私の生まれ育った東京都足立区では都営住宅の建設ラッシュ、江戸川区葛西、千葉県浦安、市原地区では埋め立てと続き、農家には土地売却代金、のり漁業者には補償金として大金が入りました。私は農協・漁協組合員名簿を入手し、休日でも一軒一軒訪問し営業活動をした結果、多額の投資信託を購入していただき、集金には常務取締役が運転手付のベンツを貸してくれました。入社後2年間は同僚の中で最高の営業成績を残すことができ、自分にも少々自信がつかってきました。私はここで初めて、誠意と熱意を持って対処すれば相手に通じる“訥弁の能弁”という言葉の教訓として悟りました。

しかし、昭和40年の証券不況による株取引の減少、社内の退廃的なムードに耐え切れず退社することになりました。私は、在職中の昭和37年10月に取引先の紹介で妻弘子と結婚し、精密機械部品加工業をしていた妻の実家の社員寮に居候していました。妻は結婚前には実家の経理全般を見ていましたが、結婚後すぐに長女を妊娠したため、私の薄給を助けるために内職をして家計を切り盛りしていました。私の生家は代々和楽器を製作する職人で金属加工とはまったく縁がなく、少年の頃はペー駒をアスファルトの舗装面に押し当て芯を研磨した経験くらいしかありませんでしたが、証券会社の退職金で小型フライス盤1台を購入し、義理の父の工場の一隅に置かせてもらい仕事を手伝うことになりました。短時間で技術を習得するため実弟を連れて工場に入りましたが、社長である義理の父とはいろいろな面で考え方が私とは異なり、精密金属加工については右も左もわからぬまま1年3ヶ月お世話になりましたが暇乞いをする事となりました。この間日本大学で文科系の人を工学系にコンバートする講座があり、夜1年間通学し、材料・焼入れ処理などの基礎的な知識を学び、また、千葉県市川市に小さな自宅と10坪弱の工場も建て、クラスメートで工作機械の販売をしていた吉池照信君にお世話になり工作機械を数台設置しました。

私は得意先の開拓、妻は資金繰り、弟は加工と役割を分担して零細企業がスタートしました。前述の吉池君には得意先であるテルモ(株)を、また奥様の父上が教職に就かれていたので最初の従業員の紹介と、創業の際には力をお借りいたしました。その後、地続きであった妻の母親の所有地を借り、プレハブの建物を建て、松本丈夫氏(昭和39年経商卒)の勤務先である日本ブランドウィック(株)をお訪ねして当時全盛であったボウリング機械の修理、部品製作の仕事の注文を受け、得意先も増加、少しずつではあるけれど軌道に乗りつつありました。また、求人難の時代であったので、市川商工会議所求人グループに参加した折、北海道各地で教職に就かれていた昭和35年卒の清水昭一(教育学科)、酒井日出男(ドイツ文学科)、吉田義昭(英語学科)の各氏をお訪ねして、就職後は寮に入居し夜間大学に通学を希望する高校卒業生をご紹介いただき、社員が6名の会社に新入社員11名を迎えるという常識では考えられないこともありました。

妻は相変わらず資金繰り、従業員20名分の昼食の賄い、夜は大学から寮に帰った従業員の夜食、若い従業員の悩み相談、2人の娘の子育てとフル回転で活躍、協力してくれました。本年8月17日の日刊工業新聞に掲載された「町工場の妻たち」の中に、「起業経営者にはハングリー精神と妻のサポートが必要」「起業するパワーは夫が発揮し、経営を持続するパワーは妻の支えに負うところが大きい」との記事を発見し、自分達夫婦のことを書かれているような気がしました。

私の物づくり、製品開発の師として忘れることのできない人で、日本で最初のラジコン模型の開発者である(株)木曾製作所社長木曾国春氏(故人)からは、「金属加工を業としたなら完成品を作るように努力しなさい」と激励されました。木曾社長はアイデアマンであり、全国の電力会社で採用されている超高压送電線を絶縁・支持する碍子の自送式絶縁測定用ロボットを開発され、私もその駆動部の製作に携わったり、東京電力の送電鉄塔に工事従事者が上り下りするのに使用する墜落防止金具の製品化を任されたりしました。

創業6年目に現在地の千葉県鎌ヶ谷市の準工業地に移転することになりましたが、ここでも親切で良き人々に出会い、励まされました。工場用地300坪、坪単価8万円でしたが、若気の至りと土地取引の知識のなさ、金のなさが加わって、契約の際手付金を10万円しか持参しませんでした。地主の方は、土地ブームが始まり日々値上がりしており、契約を破棄し違約金として手付金の2倍の20万円を返せば他に土地を転売できるけれど、若くて真面目そうだから頑張りなさいと励ましてくれ、契約を結んでくれました。土地購入、工場建屋の建築の直後に第一次オイルショックが起り、仕事も発注先企業が引き上げ減少どころかなくなり、土地、工場建築代金の銀行への返済が不可能となり、途方に暮れる日々が続きました。工場を手放せば操業ができなくなり生活基盤も失い、従業員・家族4人路頭に迷う場面も予想されました。妻は嫁入り道具代わりに親からもらった土地を手放しアパートに移り工場だけは残そうと言ってくれ、私も兄に相談しお金を借りる手はずをつけ、その実行直前に(株)精工舎より検眼器部品の仕事が入り始め、間一髪で危機を乗り越えることができました。

その後、アナログ式ホルター心電計のメカセットを開発して

フクダ電子(株)へ納入し、医療機器としては破格の数量が売れ、また他社にも納入が始まり、会社も健全な財務内容となりました。利益が出ればありのまま税金を払い、代わりに設備投資・製品開発助成などについては国・地方自治体の助成施策を利用させてもらい、その結果、東京国税庁より三度にわたり優良申告法人として市川税務署長の表敬を受けました。また、平成13年9月に品質管理システム規格ISO9001ならびに医療機器における品質管理システム規格ISO13485を取得、ここ数年は大手の下請け、加工のほか自社製品である医療機器の開発にも努め、国・千葉銀財団からも多額の助成金を受けました。開発には失敗がつきもので多額の費用がかかります。何もしなければ失敗もないけれど、私は敢えて挑戦することを心がけています。自社開発の医療機器は販売子会社のホープ電子(株)を通じ販売し、日本の医療に多少なりとも貢献したく考えております。プロ野球ソフトバンクの王監督が胃ガン除去のため鏡視下外科手術を受けられたことが報道されましたが、当社でも鏡視下外科手術に使用される電極鉗子などを製造販売しています。昨年の日本内視鏡外科学会において、胃全摘術で食道の切離、食道と空腸の吻合を比較的容易に施術可能な巾着縫合器Endo-PSIを発表いたしました。

何事にも体力、知力、運も必要でしょう。しかしすべてに勝るものは勇氣と熱意であると思います。「一期一会」人との出会いを大切に、少し他の中小企業と毛色の異なった会社にするために頑張っています。社長業は決して楽しくはない。しかし、とてもやりがいのある最高の仕事であると思います。

(株)平田精機社長)

掲示板

経済学部三役との懇談会

毎年恒例となりました経済学部長、学科長と経鸞会役員等との懇親会が下記のように開催されました。

今回は本多ソフィア会会長にもご列席いただきました。先生方からは上智大学経済学部の将来展望など興味あるお話がありました。

日時：平成18年6月28日(水) 18:30～20:00

会場：東京會館1F「ボルゲーゼ」

ゲスト：杉本徹雄経済学部長、上山隆大経済学科長、小林順治経営学科長

当会：役員ほか14名

エコノミアンズ懇親ゴルフ会のお知らせ

ゴルフ好き大集合！この記事を見たらすぐに下記へご連絡を！

とき：平成18年12月8日(金)

8:09分からIn, Out同時スタート。

場所：高麗川CC(関越自動車道、鶴ヶ島ICから15分)

人数：5～6組(20～24人)先着順で締め切り。

費用：15,000円程度

申込先：経鸞会ゴルフ会担当=秋葉哲(S42経・経)

Tel&Fax: 0426-26-1172 /E-Mail: akibavx@nifty.com